

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	キャンディパーク保育園 2号
施設所在地	葛飾区青戸 1-10-10
法人名	株式会社カラバ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自分たちで一つのものを作り上げる。(演劇)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 本園では、七夕会・発表会・クリスマス会など年間を通して様々な行事に取り組み、表現する楽しさや達成感を大切にしている。今回の活動では、子どもたちの興味や関心から広がった題材をもとに、話し合いを重ねながら内容や表現を自分タイで考え、仲間と協力しながら作り上げることをねらいとしている。また、表現活動を通して自分の思いや考えを伝える楽しさを味わえるように努めている。

2. 活動スケジュール

活動は長期休暇期間を除き、週ごとも計画に応じて実施した。特に行事が近づく時期には表現を深めるために週に複数回取り組みこともあった。

7月七夕会

- 5月7日 子どもたちと話し合い演目決定
- 5月19日 練習開始
- 6月7日 日暮里で子どもの衣装の生地の買い出し
- 7月5日、7日 本番
- 7月9日、10日 振り返り反省会

11月発表会

- 7月20日 発表会の台本作り
- 反省会で子どもから出た意見を重視し、一人一人に見せ場があるように台本を作り直す
- 8月25日 台本直し
- 9月5日 台本決定

園児保護者に配役じゃんけん大会を行う通知

- 9月12日 役決めじゃんけん大会
- 個人に合うように台詞の調節
- 9月16日 練習開始
- 9月27日 日暮里で子どもの衣装の生地 of 買い出し
- 10月29日 リハーサル(インフルエンザA流行により少人数での開催)
- 11月8日 本番前にリハーサル
- DVD カメラマンと入念な打合せ
- 本番
- 11月15日 振り返り反省会

12月クリスマス会

- 12月8日 演目決め、練習開始(子供中心で進めるように促す)
- 12月20日 発表会のDVD鑑賞
- 12月24日 本番
- 12月25日 反省会&打ち上げパーティー

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 実際に演じる演目の DVD を見たり、小学校などの劇を鑑賞しに行く。実際に劇で使う大道具や小道具の制作を行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どもたち同士で話し合いで決まった内容を基に、必要なものを用意した。(台本、大道具など)

子どもたちの話し合いを基に、題目を決めた。(今回は不思議の国のアリス)

題目は絵本や、DVD を参考に配役や台詞を考え、設定した。

練習の中で、キャラクター気持ちを想像しみんなで考えながら、台詞の言い方を工夫していく。保育者は、子どもたちのとって意見が出しやすい環境になるように、肯定的に声を掛けていく。

7月七夕会

練習時間が短い為、子どもの希望を踏まえて保育士が配役をした。同じ役を4人で演じる事もある。

(実際に主役のアリスは前半2人、後半2人の計4人となった。)

はじめてのことで自信もなく不安気な子どもたちだったが、見せる演劇として成立するよう、子どもの気持ちに寄り添いながら援助していくのと同時に、見せる喜びを感じてもらおう。

11月発表会

七夕会でいった演劇の経験を活かし、今回は自分たちで配役を決め、一人一役として一人ひとり輝けるシーンとなる劇作りに励んだ。子どもたちと話し合いの中で、七夕会でやったアリスが好評だったため、井戸役やセーラームーンなど新たな役を取り入れた。またストーリーの中で「この役がいたらおもしろいよね」と話し合いヤンキーウルフが登場したり話の展開を考え、実際に演じた。子どもの練習風景では、前回の経験を活かし、役同士で表現を工夫し合う姿が増え、自分たちでアイデアを出し話し合いながら創作を深めていった。また、七夕会に比べて練習期間も長い為、練習を重ねれば重ねるほど自信に繋がり、台詞M「こんなセリフを足して言いたい」「こんなこと言ったらおもしろいから言いたい」と徐々に意欲的に練習に臨み表現の幅も自主的に広がるようになった。保護者には子どもたちの練習の協力をお願いした。実際に台詞の言い方を模索したり、毎日練習をし母親も台詞を覚えるなど協力して頂いた。

練習の結果、本番では演じることを楽しみながら、90分の演劇を堂々と演じ切り大きな自信に繋がった。保育者の援助としては、子どものやりたいという気持ちやアイデアを一番に優先し、そこからどのように話が展開していくか考えられるよう計画した。また、演じるということにハードルを感じている子には無理はさせずまずは、演じることの楽しさを知ってもらえるように挑戦したり、1人で台詞をいうのではなく友だちと一緒に

言ってみたり台詞ではなく替え歌のようにすることを提案したりして。その子の合った表現と一緒に模索していくことを意識し、練習に参加した。

12月のクリスマス会

クリスマス会では何をするか話し合った結果、発表会の劇で披露下ダンスを組み合わせ、ダンスメドレーをする結果となった。

どのダンスを踊るか自分自身で考え、希望したダンスを踊り披露した。表現が苦手な子には、一緒に寄り添って関わる事で自信に繋がるようにした。活動後の振り返りや、連絡帳での共有を通して、子どもたちの成長を保護者と共に見守る事が出来た。

6月から12月の期間でおこなった表現だったが、たった6ヶ月で2～3年分成長下のではないかと思えるほど大きな成長を感じることが出来た。保護者からも同様な意見をいただいた。3月の卒園式では、子どもたちからはこれまでの表現する事を通して卒園式中のお別れの言葉も自分たちで考えたいという姿があった。子ども意見を尊重しお別れの言葉も、子どもたちと保育者で話し合いながら決めていき練習をした。また劇中の2つのダンスも思い出して組み入れる。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 劇について詳しく子どもたちと一緒に話し合い決めていく。「こんな役がいたらおもしろそう」「こういう台詞も言いたい」「この動き入れたらどう」など子ども同士の話し合いの中で劇に内容を広げていく。また練習で実際にやってみて少しずつ変化させながら劇よりいいものにしていく。やってみての気づきによって子どもが苦戦している台詞は言いやすいものにしたたり、覚えられるように繰り返し練習を重ねた。



↑七夕会の練習風景



↑七夕会の保護者観覧



↑発表会の役決めじゃんけんで負けてしまった女の子



↑ 発表会の練習



↑ 発表会リハーサルに気合が入る保育士たち



↑ 発表会本番



↑ 発表会日暮里生地買い出しツアー

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動後には毎回、子どもたちと、「ここが良かった。」「こうするともっといい」と振り返る時間を設け、表現のは幅を広げた。表現が得意・不得意に関わらず、それぞれが自分の役割に向き合いながら力を発揮できるよう、子ども関わり方や支え方を柔軟に変えていく事の大切さに気づかされた。子どもたちのの気持ちを受け止め、一緒に楽しむことで。「やってみよう」「もう一回やりたい」よ言う意欲に繋がる場面が多く見られた。保護者と毎日やり取りをしている連絡帳でも、その頑張りや成長を具体的に伝え、保護者と共有しながら温かく見守ることが出来た。今回の保護者と一緒に頑張りあった経験は、何年後かに一緒に頑張らなければならない糧になると感じた。それに加え、過程でいっしいに頑張りあうことで1人だけでは出せない結果が、作りだせるという経験は、この先活かされる事だろう。この行事を通して、自分たちで考え創作していき作ったものを見てもらい楽しんでもらいたいという気持ちがとても大きくなったように感じる。実際に、12月で完結するものが、このように卒園式迄活用していったのは、自分たちで作り出し表現する楽しさを十分に味わえたからだと思う。この活動を通して、頑張る事で自信が付きできなかったことが出来るようになったという経験は、今後の成長や様々な場面に生かしていけると感じた。